

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	そえる			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 1日 ~ 令和7年 11月 21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 20日 ~ 令和8年 1月 24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 28日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員同士が日常的に情報共有を行い、連携を大切にしながら、一人で抱え込まずチーム全体で子どもたちの育ちを支え、安心して相談し合える風通しのよい支援環境づくりを心がけています。	毎日の朝ミーティングや支援後の振り返り、月1回の療育会議を通して、子どもの様子や支援のポイントを共有しています。職員全員がケース会議に参加し、多角的な視点で意見を出し合うことで、支援の質の向上を図っています。また、職員配置に余裕を持たせることで、個別対応が必要な場面にも柔軟に対応できる体制を整えています。	会議内容や支援の工夫を記録として整理し、誰が見ても分かりやすい形で蓄積していきます。新人職員への共有や引き継ぎにも活用し、事業所全体で安定した支援が行える体制づくりを進めています。
2	一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を大切にし、子どもそれぞれの『できること』や『やってみたい気持ち』に寄り添いながら、その子に合った関わり方や環境調整を行うことで、無理のない支援を心がけています。	アセスメントや日々の行動観察をもとに、一人ひとりの発達段階や特性に合わせた支援計画を作成しています。個別活動と集団活動を組み合わせながら、成功体験を積み重ねられるよう支援しています。子ども自身が選んで活動に参加できる環境を整え、主体性や自己決定の力を育てることを意識しています。	モニタリングや評価の内容をより具体的に整理し、目標設定と支援内容のつながりが分かりやすくなるよう改善していきます。
3	日頃から安全管理を意識し、安心して過ごせる環境づくりに努めるとともに、非常時を想定した訓練や確認を行い、職員間で役割や対応方法を共有することで、万が一の際にも落ち着いて速やかに対応できる体制を整えています。	事故防止・防災・感染症対応等の各種マニュアルを整備し、職員間で内容を確認しています。避難訓練を定期的に実施し、ヒヤリハット事例についても共有することで、日常的に安全意識を高めています。	訓練後の振り返りを行い、課題点を次回の訓練内容に反映させるなど、より実践的な対応力の向上を目指します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、第三者評価は未実施であり、外部の視点から事業所の運営や支援内容について客観的に確認・評価を受ける機会が十分に確保できていない。	現在は第三者評価の導入には至っていませんが、職員面談や職員アンケート、日々のミーティングを通して内部評価を行い、支援内容や業務体制の振り返りを行っています。職員一人ひとりが気づいた点を出し合い、小さな改善を積み重ねることを意識しています。	第三者評価制度について情報収集を進め、評価の流れや費用、実施時期を検討していきます。外部の視点を取り入れることで、事業所の課題や強みをより客観的に把握し、質の高い支援につなげていきます。
2	地域の方々や関係機関との交流の機会が限られており、地域に開かれた活動やつながりを十分に持てていない。	親子レクリエーションなどの行事を通して、保護者やきょうだいを含めた交流の機会を設けています。子ども同士が関わる経験を大切にし、集団の中で過ごす力を育てることを意識しています。	地域の児童館や公共施設、関係機関と連携し、交流活動や見学の機会を検討していきます。地域の中で経験を重ねることで、社会性の向上や安心して地域で過ごす力につなげていきます。
3	関係機関との直接的な連携の機会が限られており、情報共有や協働した支援の取り組みが十分に行えていない。	保護者を通して学校や他事業所の情報を共有し、子どもの状況を把握しています。必要に応じて電話等で確認を行い、支援内容に反映しています。	サービス担当者会議や関係機関との会議へ積極的に参加できる体制を整え、直接的な情報共有を増やしていきます。医療・教育・福祉等との連携を深め、より一貫性のある支援を行っていきます。